

ミョウガ (ミョウガ科)

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
植えつけ			収穫(夏ミョウガ)			収穫(秋ミョウガ)					
				ミョウガタケ収穫							
				箱をかぶせて軟白化							

品 種

早生種の「夏ミョウガ」と、晩生種の「秋ミョウガ」とに大別されます。

栽 培 ポ イ ン ト

有機質の多い土で、半日陰ぐらいになる湿りぎみの場所で作ります。

3月下旬～4月上旬に、株分けした地下茎を植えつけます。タネ株は、この時期に園芸店や農家から入手します。また、6月ごろに間引き株を植えてもりっぱに育ちます。

発芽後、中耕と土寄せをします。高温・乾燥期の前と地上部が枯れた時期に、追肥をして、わらや落ち葉を敷き込むと、育ちがよくなって株が充実します。さらに、夏はときどき水をやり、乾燥を避けます。病気はほとんど問題ありません。

植えつけ後3～4年たつと株が弱ってきますから、間引いて更新し若返りをはかります。

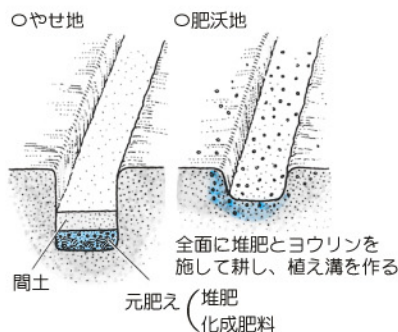
花ミョウガは、植えつけ後1～2年目ぐらいから収穫できます。花が咲く前の、身のしまっているうちに収穫します。ミョウガタケは、根株を掘り上げなくても家庭で簡単に作れます。発芽直前に、株の上に箱をかぶせて、陽光をさえぎり、伸び出る芽を軟白すれば60日ぐらいででき上がります。しかし、毎年行くと株が弱るので、2～3年に1回ぐらいにとどめます。

栄 養

栄養価は低く、カルシウムがやや多い程度ですが、独特の香りが食欲を増進させます。

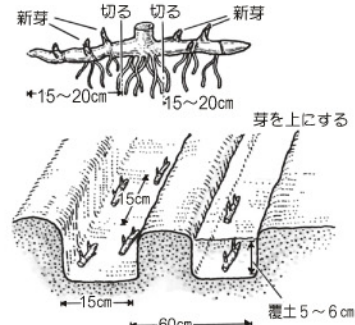
1 畝作り

あらかじめ苦土石灰をまいて耕しておき、畝溝を切って元肥えを入れ、間土をする。ミョウガは化学肥料が直接根にふれると腐るので、気をつける。肥沃地では、化成肥料を施さない。



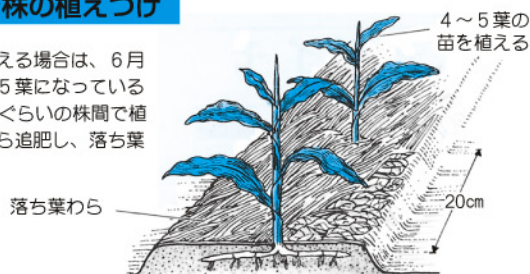
2 タネ株の植えつけ

3月下旬～4月上旬ごろに、芽のついている地下茎を選び、15～20cmぐらいに切り離す。この芽を上にして、干鳥に、2列に植え、覆土する。



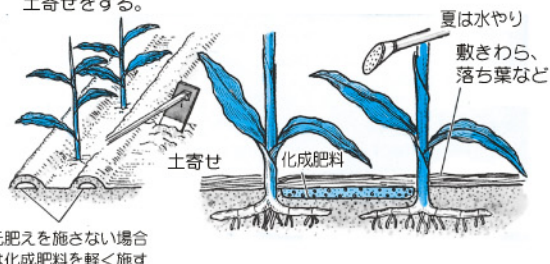
3 間引き株の植えつけ

間引き苗を植える場合は、6月上～中旬に4～5葉になっている苗を用い、20cmぐらいの株間で植える。活着したら追肥し、落ち葉やわらを敷く。



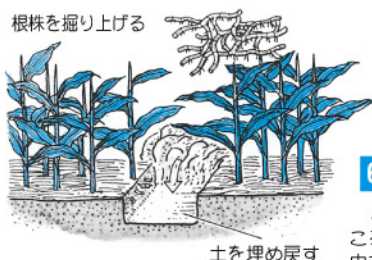
4 発芽後の管理

高温乾燥期前の6月下旬～7月上旬と、地上部が枯れた11月下旬～12月上旬の2回、畝間に追肥を施して落ち葉をすき込み、乾燥防止と地力の増進をはかる。元肥えを施さない場合は、その前に1度、5月中旬ごろにも軽く追肥、土寄せをする。



5 株の更新

3～4年たつと、根株が貧弱になってくるので11月下旬～12月上旬に、1mおきに40cmぐらいずつ根株を掘りとり間引く。掘り取った部分に新しい根が広がり、3～4年でふさがる。これを3回行えば、全面的地下茎が更新できる。



主な病害 根茎腐病

6 ミョウガタケの作り方

3月下旬～4月上旬、発芽を始めるころに、箱などをかぶせて暗くしておく。中で芽が伸び始めるので、20日ぐらいたつたころ、箱のすそを5～6時間あけて採光と通風をはかる。同じことを1週間後に再度行う。これによって、ミョウガタケに赤みがつき、5月下旬ごろから収穫できる。

